

言語聴覚士が出前授業

言語聴覚士 「話す」「聞く」「食べる」のいずれかが不自由な人に機能回復の訓練や指導などを行うリハビリの専門職。1997年から国家資格となり、有資格者は全国で約3万6000人。県内では2000年に県言語聴覚士会が設立され、昨年6月時点で364人の会員がいる。

大学卒業後、言語聴覚士を目指して専門学校に入り、資格を取得。結婚し、自らの子育て中に知り合った母親から、吃音の子どもを育てる親の悩みを知る。吃音について学び、松本市の民間診療所に開設された「ことばの外來」で2016年から言語聴覚士として働き始めたのを機に、吃音を正しく理解してもらいたいと17年から出前授業に取り組んでいる。

吃音は国内に約120万

きちんと聞くことが大切で
す」と呼びかけた。

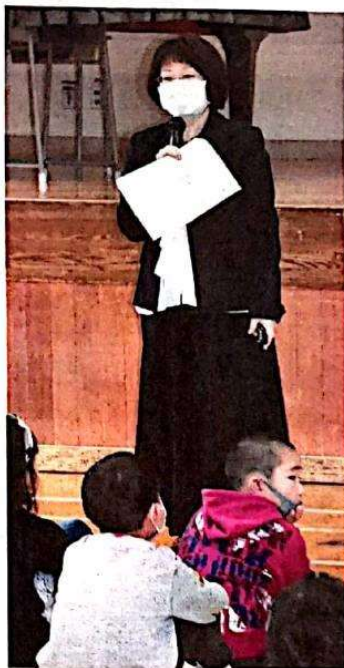
吃音の人との向き合い方を学年ごとのグループで話し合った児童からは「話し終わるまで待つ」「優しく最後まで聞く」など意見が上がった。

人、県内には約1700人いるとされる。内藤さんは「当事者にとつては自然な話し方ということを知ってもらいたい」と話し、出前授業を続けていく考えだ。

日本吃音・流暢性障害学会(事務局・金沢市)によると、言語聴覚士による吃

内藤さんは下諏訪町出身。もともと言語に興味があり、学生時代のベビージッターのアルバイトでは、発達障害の2歳の子どもがゆっくり言葉覚えていく姿をうれしそうに親が捉えている様子に心を揺さぶられた。

音の出前授業は全国的にも珍しいという。小林宏明事務局長は「いとはの教室」が併設された小学校では、研修を受けた教員らが吃音の児童から相談を受けるなどの取り組みはあるが、全国的に啓発活動は十分とは言えない」と指摘している。



生坂小で出前授業を行う内藤さん（4月14日、生坂村で）